

アオウキクサ属の分類と2,3の新種について

別府 敏夫

(京大・農・応用植物)

ウキクサ科の植物は、植物体が小さいこと、体制が単純なこと、外部形態は環境条件により著しく変化すること、また自然状態では開花・結実がまれなことなどのため、分類の困難な植物の一つである。特にアオウキクサ属の分類は昔から混乱しており、分類の論文が書かれるたびに、新種が記載されたり、以前に書かれた新種が否定されたりしている。このような混乱の原因の一つは、花や種子を十分観察していないことである。筆者は、アオウキクサ属の植物を世界各地から収集し、開花・結実させ、種子を得ることができた。これらの花や種子を走査電顕で観察したところ、以下のことが明らかになった。

① *Lemna gibba* と *L. minor* は花・種子の形態か

ら明らかに区別できる別種である。

② *L. minor* は全世界的に分布するが、最近、極東に分布するグループが *L. japonica* (新種) とされた。しかし、これは花・種子ともに *L. minor* のそれと区別できない。

③ 従来、*L. paucicostata* とされていた植物は、花・種子の形態から少くとも三つのグループに分けられる。特に、③で分けた各グループの植物は、特有の分布域(図1)をもち、葉状体の内部構造(図2)からも明らかに区別できる。また、予備的に行なった交配実験でも、 F_1 が不稔になることから、各グループはそれぞれ別種であることが強く示唆される。

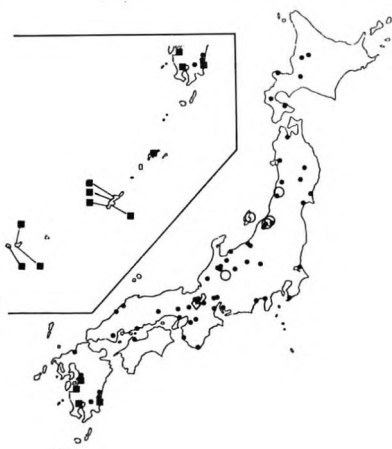


図1. 日本における *L. paucicostata* の各タイプの分布。●: N-1タイプ、○: N-2タイプ
■: Sタイプ

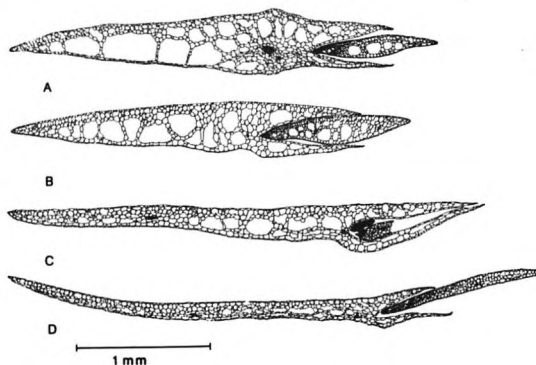


図2. *L. paucicostata* 各タイプの葉状体の縦断面
A: Sタイプ(日本)、B: N-1タイプ(日本)、
C: N-2タイプ(日本)、D: 6746(アメリカ)

○ 宮城植物の会編著「続宮城の自然をたずねて—海浜・湖沼の植物」(第一法規出版、昭和56年12月、232p、1900円) 後半の「湖沼の植物」の部では、水草群落について概説したあと、各植物についての解説やエピソードがつづく。37種がとりあげられているが狭義の水草は10数種で、他は湿地や水辺によく見られる植物である。巻頭24ページにわたって載せられているカラー写真は美しいが、「ホザキノフサモ」の写真は具合が悪い。それらしきものも写ってはいるが、目立つのはヒルムシロ属の沈水植物。また、「ヒルムシロ」の写真はフトヒルムシロである。なお、同じ出版社から、秋田自然史研究会編「秋田の自然をたずねて」(昭和56年10月、226p、1900円)が出ている。季節別に代表的な動物や植物をとりあげ、文字どおりの「ふるさとの博物誌」となっている。水草では、ミツガシワ、ジュンサイ、ガマ、ヒシなどが登場する。

(角野)